

## 知事記者会見（平成２３年２月８日）

### ●知事発表

な し

### ●幹事社質問

（１）２月定例会について

### ●その他

（１）教育長の後任人事について

（２）国民文化祭について

（３）高速道路の無料化について

（４）首長と議会との関係について

時間：１６：００～１６：３５

場所：プレゼンテーションルーム

---

（幹事社）

今日は知事の発表事項がないということなので、幹事社から１点、２月定例議会に向けて意気込みをお聞かせください。

---

（知 事）

これは発表事項ではないんですけれども、今朝、文化庁長官から平成２６年の国民文化祭開催の内定書をいただけてまいりました。文化庁の中でも何社かの取材を受けましたけれども、文化庁長官からは、既定といいますか、ルールに定まった部分はやっていただきながら、自由にオリジナルな部分では余り型にはまらず秋田の特色を最大限生かして、広く文化を捉えても結構だというお話を伺ってきました。私からは、秋田といえば食文化にお酒の文化だからそれもいいのではないかとということをお話しましたら、大いに秋田に合った形でやってくださいと、文化庁も全面的に応援しますという言葉いただきました。

さて２月定例会が１０日に開会します。今年は統一地方選挙、県議会議員の選挙が４月１日告示ですので、例年よりも（２月議会が）２週間近く早く始まるということですが、重要な予算を提案しているつもりです。産業経済・雇用関係については緊急的なものを含め、これからの中長期的な産業再生もあげていますが、特に今回は、農林漁業の大転換期ですので、攻めの農業という立場、あるいは国産材時代に対応した林業木材産業のあり方、さらには最近、秋田沖で様々な魚が獲れまして、ハタハタのみならず高級魚も獲れますので、こういうものを付加価値の高いものにしていくと。農林漁業の転換期を迎えて、それに対してみんなで頑張っていこうという大きな理念のもとに農林漁業政策が議論されるも

のと思います。

また、医療関係、医師不足対策については大変厳しく、（医師の）絶対数の少ない中、中長期的な形でしか根本的な解決にはならないと思いますけれども、それまでの間、何とか一定のレベルでつなぐために我々もいろいろ工夫しながら、様々な形で協議しながら今模索しています。医療対策についてもご議論いただくことになるかと思っています。

あと財政的な問題は、プライマリーバランスが今のところ久々に黒字ですが、県債というのは多額に及んでいますので、これから国の財政も逼迫していく中、地方財政もそれに対応した形で骨太の体質を求めなければなりませんので、行財政改革についても議論されるのかなと思っています。

いずれこの農林漁業、あるいは医療、雇用、行財政改革、ここら辺が非常に大きな議論になるのかなと。そしてまた農林漁業関係、医療関係について県議会議員の方々にとって、それぞれの地域にそれぞれ課題がある身近なものですから、より積極的に、また具体的な議論をしながら、新しい年度につなげていかなければと思っています。

---

（幹事社）

2月定例会に関連して質問のある社はございますでしょうか。

---

（記者）

先ほど攻めの農業というお話をなさしまして、当然のことながら政府の考えるTPP、農業も含め輸出入の関連が出てくると思います。今回、農林漁業、特に米以外の花きであるとかそういったものにも力を入れられているようですけれども、この輸出等についてはどのような支援ということをお考えでいらっしゃいますか。

---

（知事）

輸出品目も大分拡大していますけれども、まだ品目的にも量的にもそう大きなものではありません。それと、各地域の農産物の輸出というのは産地間競争が本格化していくのではないかと思います。特に今年は、海外への様々な商談会等々に加えて、地元金融機関とタイアップして海外への農産物のみならず様々な産物、あるいは技術の売り込みを考えています。これが今までになかったことです。行政だけではなかなかできないので、金融機関が全面的に入ることにより、その金融機関の取引先の様々なところが具体的に入ってきますので、私ども金融機関の協力に非常に期待をしています。

私もかなりあちこち歩くわけですが、海外に行く場合にもう一つ、秋田港とも関連がありますが、秋田港には燻蒸施設がない、昔はありましたけれども壊れたままでした。こういうものも今回の予算、国際ターミナル関連事業の中でやりますので、輸出する際にも検疫、消毒についても地元で全部できるようにという一連の流れで海外への農産物の展開というものを考えていくということです。

---

（幹事社）

ほかに関連して質問ございますでしょうか。

---

(記 者)

予算との関連ではないんですけれども、先日、根岸教育長が本年度内での辞任ということを表示されましたけれども、2月定例会に後任の人事案件を追加提案されるかと思うんですが、後任について今、方向性といいますか、どのようなお考えで進めていらっしゃるのかを伺えればと思います。

---

(知 事)

根岸教育長は、任期途中でありましたが、去年の段階で1回私のところにそろそろということで（辞任したいというお話が）ありましたけれども、私も（知事に）なって1年目で学校統合の関係が残っていましたので任期までやっていただきたいということでお願いしました。しかし、今年お正月過ぎにそういう（＝辞任したいという）意向を示されて、私はもうちょっとやっていただきたいということをお話しておりました。ただ、もし途中でとなりますと後任の人事について年度をまたぐわけにもいかないものですから、2月の初めにあらためて固い決意だということで致し方ないなということになりました。

後任については、まだこれからです。どういう方がいるのか、ふさわしい方がたくさんいらっしゃいますので、その中からどういう形で選ぶのかというのはこれからです。私自身、教育界のことについて詳しいわけでもありませんので、これからの教育行政の課題なりを踏まえて、ふさわしい方をこれから選ぶということになります。ただ、これは一時も停滞が許されませんので、今会期中には人事案件として提案したいと思います。

あと、一つ、今、まとめていますけれども、補正予算で雪害対策を追加提案したいと思っています。ただ、積雪が非常に多いものですから、3月の後半にならないと分からないものもありますので、（その分については）もうちょっと後になると思います。議会の終了まで分かるものについては出したいと思っています。農家の場合、資材の手配というものを早めに2月あたりからやりますので、できるだけ早くそれなりの内容をお示しすることで雪害対策予算が出てきます。

---

(幹事社)

ほかに質問ございますでしょうか。

では、定例会以外での質問、各社お願いします。

---

(記 者)

知事、冒頭でお話いただいた国民文化祭の件なんですけれども、型にはまらない、自由なオリジナリティーのあるというお話がございました。これから調査行われると思うんですけれども、今の段階でどんな国民文化祭にされるのか、どういったポイントづくりを頭の中に描かれていますでしょうか。

---

(知 事)

これは、それぞれの分野の専門の方から平成23年度に十分議論いただいて方向性を決めるわけですが、それぞれの分野の方というと、その分野に特化した方が多いですから、私は個別の文化的なものに対してはそう詳しくはありませんが、角館のお祭りの当事者だ

ったり、秋田蘭画のある意味での当事者だったり、知事として県内の様々な文化に触れる機会というのは一般の方より非常に多いわけです。そういうことから、少子高齢化の中ですが、秋田の歴史が育んだ、秋田の自然風土が育んだ様々な文化、郷土芸能や芸術文化、これは正調、よく民謡では正調と言いますが、正しい形で残すということ、これを引き継いでいくということは大切なことだと思います。オリジナルの元祖がありますので、これはきちんと残していくと、こういうものが廃れていきますと結局本物というのは何なのかと分からなくなりますので、歴史ある伝統的なものについては引き継いでいくという一つのきっかけにしたいと思います。

それだけではなくて、若い方はそれにプラスアルファ、例えば最近ではジャズ分野で民謡の一部を取り入れたり、あるいは民謡とオーケストラの融合とか、若い方々を中心に新しいアレンジをした形があつていいと思います。歴史の中で常に同じというのはないと思いますので、そういう形のものもあるのではないかと思います。古いものを残しながら新しい挑戦というか、若い方も含めていろんな組み合わせの中で新しい創造をしていくというものもあると思います。

もう一つは、秋田県内、25市町村全部にそれぞれの何らかのお祭りとか郷土文化がありますので、何らかの形で25市町村が参加できるのではと思っています。お祭りのなものについては別に専門家でなくても、一般県民の皆さん、子供さんからお年寄りまで何らかの形で参加できるような形もおもしろいのではないかと思います。県民こぞって文化というよりお祭りのような、また、先ほど話した秋田は食文化だとか酒の文化というような、おらほの文化もこれも文化だぞというようなものを発揮していきたいと思います。

あともう一つは、今、文化芸術の中にIT技術が入ってきています。ですから平成26年、もう3年後だと、多分裸眼3Dなどはかなりのものができていると思います。特に（指定予定の1件を含め）16件ある重要民俗無形文化財というのは、若い方々が興味を示して後を継ぐために習うことができる、3Dの映像として踊りの技法だとかルール、表現というものの全部を未来に残す、あるいは記録として3Dの映像で保存するということも考えられると思います。そういう新しい技術もふんだんに使って、伝統と創造と近代先端技術の融合みたいなもの、さらにそれに秋田の食文化から農業も含めたものをやれればと思っています。ただ余り欲張って散漫になると困りますので、いろいろ議論していただきながら最終的にスキームを決めていきたいと思います。

---

（記 者）

先ほど雪害対策という話がありましたけれども、日々被害状況が変わっていく中で、今の時点で考えていらっしゃる支援内容、あと支援規模、改めてお伺いさせてください。

---

（知 事）

除排雪対策に大分市町村が（予算を）使っております。基金を取り崩して補正予算で対応しています。昨日も（民主党の豪雪災害対策本部の視察で）お願いしまして、副知事も国へ（要望に）行きましたけれども、除雪経費については総務省の特別交付税措置と、それから国交省の交付金がありますので、これを何とか、最大限増額していただくようにということです。これについては、そういうための交付税、制度ですので、ある程度補填さ

れるのではないかと思います。

問題は、果樹被害です。お米の場合は１年ごとですけれども、果樹の場合は木が倒れてしましますと、苗木を植えても、りんごの場合は、実が採れるまで最低５年、ちゃんとした商品になるまでは１０年かかるということでした。そうするとその間、かなり収入が減るという形になります。ですから単に（苗木を）植えたりなど現状復帰のみならず、その間、たまたま別の作物もやっている方であればそれと組み合わせながら、生活が成り立つようにしていかないといけないと思います。これほどの果樹被害が今までなかったわけですので、県としてもいろいろ組み合わせた形で政策展開をしなければならないと。営農意欲がある方について、駄目になったものを植え替えるというところを最初にしなが、その後の所得をどうするのかということを他の作物とも一緒にしたり、地域全体での支え合いがどういうものができるのかについて検討しています。国の制度がいろいろありますが固い制度になっています。国の制度についてもできるだけ弾力的に、かつ、これだけ被害があれば、秋田のみならず他県もあれば相当金額も大きくなりますので、国の予算枠も拡大してほしいということも言っています。国ができないところを県でどうフォローするかという組み合わせはこれからです。

それと金額的には、今のところ横手、湯沢の果樹被害が十何億円とか、１０億円とっていますが、これはまだ最終確定までは至っていません。相当な被害金額になるのではないかと思います。ですから、それに応じた形で国と県との対策をこれから組んでいかなければならないということです。

余りにもダメージ受けている方に、できるだけ頑張っていただきたいと、我々も議会と相談して、また国にも最大限要望して、せっかく秋田のりんごもブランド化してきて、海外でも売れるようになっていきますし、東京市場の関係等でも評価が高くなってきているわけですから、何とか営農意欲を失わないようにということで、早め早めに政策展開の概要を発信して、安心していただきたいということです。

---

（記 者）

今の時点で想定されている予算規模は。

---

（知 事）

国の制度のどういうものが使えるのか、（国の制度の）隙間がどうなのかということは、まだ分かりませんが、ただかなりの額になるのかなとは思いますが。通常だと数千万円でしょうが、とてもそういう額には収まらないかと思います。

---

（記 者）

高速道路無料化の件なんですけれども、今日の報道で秋田中央から北上まで無料化を６月からされるということが明らかになりましたけれども、知事はこの高速道路無料化がどういった影響を県に及ぼすとお考えですか。

---

（知 事）

実は国交省からまだ何も来ていません。多分このとおりだと思いますので、それを前提

にしてお話申し上げます。無料化の実験だとしみますと、今やっているところ以外に、秋田道と東北縦貫道とを結ぶ地点から秋田中央インターまで、これもやっていただきたいということで（要望は）していました。そういうことでは県の意向に沿ったものかなと思います。日本海側というものは様々な物流コストがかかる。冬になりますと、また（コストが）かかるということで、日本海側の産業戦略上、中央の消費地、大企業があるところまでの物流コストを考えるとできるだけ安い方がいいということは言っていました。今回、全国で6区間でしたが私自身は喜んでいますが、今の政府も無料化区間を余り広げると財政上の問題が出てきますので、一定の歯止めの中でやっているというのは理解をしています。秋田県内は鹿角、小坂のところ以外は事実上全部無料ですが、（無料区間を）やることによって（高速道路が）つながっていない部分の工事が財源の問題で遅くなるとなると、これも痛しかゆしということがあります。地域の活性化につなげるために、その道路交通の不便な、あるいは遠隔地のところについてはこういう（無料化の）措置はいいと思いますけれども、これを全国全部がこうなって（＝無料化）しまいますとこれも困るなど。ややエゴかもしれませんが。そこら辺が喜びながらも、国のメッセージがあまりないものですから、この後どうするのかということで若干の不安は残っています。

そういうことで、ミッシングリンクをできるだけ早期につないでほしいという要望はこれからも続けていかなければならないと思っています。

---

（幹事社）

ほかにありますでしょうか。

---

（記 者）

この前の日曜日に名古屋で、選挙がたくさんありました。それで今地方議会と首長の間で、殊更対立軸を明確にして論点を争ったり、あるいは首長ご自身が自分の政党、政治団体をつくって、その人を議会に送り込むという手法が目立ってきていますけれども、改めて知事のお考えというのを。

---

（知 事）

それぞれの首長さんなりの、体質とか、性格もあると思います。それと置かれている自治体の状況もあると思います。そういうことで私は、今、秋田では対立の構図で、首長の考えと議会の考えが180度違うという問題はそうないと思います。名古屋の状況が秋田にそのまま当てはまるかというと、そうでもない。大阪の場合、大阪府も大阪市も様々な課題が存在しています。名古屋は、トヨタなどの大手企業があつて財政的に我々からすると大変豊かで行政と何らかのかかわりがあるという方は比較的少ないのではないかと思います。大企業やその関係企業の勤労者ですので、大企業の方というのは行政とのつながりというのは直接的にほとんどないのではないかと、これまで議会等々となじみがなかったのではないかと思います。それを首長がさらけ出したということで今の構図になったのではないかと思います。

ただ、今回の結果というのは、私は名古屋市、愛知県だけの問題ではなく、日本の政治、国政ばかりではなく全体に閉塞感があるときには、水戸黄門待望論で、この印籠が目に入

らないのかという、劇場型といいますか、これに対して非常に期待をするというのは世の常なんです。

それともう一つは、今回、減税についてですが、非常におもしろいと思うのは、今、政府は消費税も含めて、増税路線だと思います。それは政策を固定して増税路線なんです。ですから、私は減税という選択も一つあっていいと思います。ただし、減税するかわりにこういうサービスはやめますとか、ここについてはこうしますよという中で、選挙民が選べばいいわけです。国を見てると金が足りない足りないと言うけれども、我々もそういう癖がありますが、私は消費税というのは一定程度に必要なとは思いますが、ただ、その前に、無駄は省いた上で、このサービスとこのサービスはやめますがそれでもいいですかと。そのかわりこれだけの減税できますよと。もしかしたら（住民の皆さんが）オーケーするかもしれないです。そういう選択もあっていいと思います。今、国は増税路線にひた走りですけども、今回はそういう選択ができたということだと思います。選択できたということは、民主主義の原点だと思います。

ああいう流れそのものは秋田にはなかなか当てはまらないでしょうし、私はとてもできないですけども、一つのやり方として今後も起こり得ると思います。そのかわり減税になってからのことは住民は責任を持たなければならないと思います。減税になりますと、多分交付税も減らされます。財源的にかなり圧縮されますので、無駄遣いを節約で圧縮する以外に、それで済めばいいけれども、住民サービスが減ってくるとすると、これは住民が甘んじて受けなければ駄目だと思います。そこの覚悟があるかどうか、これからです。

---

（記 者）

最後に一つだけですけども、秋田県もこの4月に県議会選挙があります。候補者の一部の方からは知事と今の県議会ではあんまり競争原理が働いてないんじゃないかという批判もありますけれども、知事ご自身としては今の県議会とは緊張関係を持って対話していらっしゃるというご認識でいらっしゃいますか。

---

（知 事）

同じ場所に住んでいて同じ空気を吸っていると、そう極端な違いは、意識的に出さない限りないと思います。意識的に出すというのは対立軸をつくらなければなりません。これは政治の中ではあり得ると思いますけれども、ある程度の論理性と現実性、県民の支持、100パーセントは無理ですけども一定の支持がある政策を出すと、それに対して頭からは否定できないと思います。私は対立をするための政策は出してませんし、出す必要もないです。これはちょっと言い過ぎかもしれませんが、一番大切な産業政策の議論、我々は相当（提案等を）出していますけれども、ここについてももう少し県議会で議論をいただきたいなというところはあります。秋田で今一番の稼ぎ頭である製造業に対する議論というのが今までほとんどなかったと思います。この前、農業について、柴田議員と本質的な議論をしましたけれども、ああいう議論を（産業政策についても）したいなと思っています。私の方もそのための（＝議論するための）題材といいますか、そういう投げ掛けをもう少ししていかなければならないと思います。逆に言うと攻めることが何もないから馴れ合いと言うんです。攻めることがあったら農業政策のここが駄目ですと言えばいいの

ですけれども、何もないから、馴れ合いといっている。多数決ですから、多数の方と執行部はある程度、意思疎通というか、一定の意識の共有があるから賛成があるわけです。必ず多数と少数があるとすると、多数の方と馴れ合っているというのは論理的におかしいと思います。もっともっと根本の議論を深めるということは我々も心すべきだし、県議会の議員の方々にも望むことです。

---

(幹事社)

ほかに質問ないようでしたら、これで終わらせていただきます。

本日はありがとうございました。